

情報リテラシー支援

藤田節子(川村学園女子大学教育学部)

目的

公共図書館が地域住民の情報リテラシー支援の拠点として活動する意義・役割、現状・実態、支援方法の種類、企画法などを学ぶ。

目標

情報リテラシー支援講座(OPAC使い方講座)の実施企画書と実施プログラムモデルを策定し、互いに発表・検討しあい、企画のヒントを得て、講座終了後各館で具体的な支援講座を実施することにつなげる。

第1部 講義(9:30-12:00)

1. 講義前アンケート結果報告

- (1) 情報リテラシー支援講座の実際
- (2) 実施していない理由

2. 情報リテラシー支援の必要性

- (1) 情報環境の変化
- (2) 情報リテラシー
- (3) 公共図書館の役割

3. 情報リテラシーとは

- (1) 情報リテラシーの種類
- (2) 情報リテラシーにおける「能力」

4. 情報リテラシー支援の現状

- (1) 情報リテラシー支援講座の現状
- (2) 情報リテラシー支援の事例

5. 利用者の情報探索行動の実態

- (1) 情報探索の方法と実態
- (2) OPAC 検索の事例

6. 情報システム構築の考え方と支援方法

- (1) 情報システム構築のピラミッド
- (2) 情報リテラシー支援の方法

第2部 演習(13:30-16:00)

1. 情報リテラシー支援講座の企画

- (1) 情報リテラシー支援講座の位置づけ
- (2) 実施の手順
- (3) 実施企画書の作成
- (4) 事例

2. 標準「OPACの使い方講座」の企画策定演習

事例や資料を参考にして、グループで意見交換しながら、情報リテラシー支援講座(「OPACの使い方講座」)の企画書とプログラムモデルを策定する。

3. 企画の検討と発表

グループごとに各企画案を発表し検討しあう。

4. 全体のまとめ

以上